

中山間地域における「コシヒカリ」の良食味米生産のための栽培管理	
【要約】 穂肥の減肥によって食味値向上が期待できる。慣行基肥、穂肥無施用栽培において、移植時期又は刈取り時期を慣行より1週間程度遅らせることが味度向上に有効である。また、整粒率の向上も味度向上に有効である。	
中山間農業研究所 作物・果樹部	【連絡先】 0577-73-2029

【背景・ねらい】

県内中山間地域で栽培される「コシヒカリ」は、品質・食味ともに市場評価が高く、消費者からの評価も高まっている。しかし、近年は産地間競争が激化しており、今後はより一層の良食味米生産に取り組む必要がある。

米の食味評価には一般的に食味値と味度が指標として使われており、これらの指標は、米・食味分析鑑定コンクール等でも使われている。そのため、「コシヒカリ」のより一層の評価向上には、食味値と味度の向上が必要である。そこで、「コシヒカリ」の食味値と味度の向上に有効な栽培管理技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- 1 出穂約18日前施用する穂肥を減肥することで玄米中のタンパク質含量が低下し、食味値が向上する傾向にある(表1)。
- 2 慣行基肥、穂肥無施用の場合、移植時期を慣行の5月中旬から5月下旬～6月上旬に遅らせることで味度が向上する傾向にある(表2)。
- 3 慣行移植時期、慣行基肥、穂肥無施用の場合、刈取り時期を慣行(黄熟籾80～90%)より1週間程度遅らせることで味度が向上する傾向にある(表3)。
- 4 整粒率を向上させることで味度が向上する傾向にある(図1)。

【成果の活用・留意点】

- 1 穂肥の減肥栽培は食味値の向上は可能であるが高い収量が見込めないため、経済性を考慮して実施すること。
- 2 刈取りを遅らせることで、胴割れ粒が増加する可能性があるため注意する。
- 3 この技術の適用は、標高400～600mの地力の中庸なほ場とする。

【具体的データ】

表1 施肥量と食味の関係（平成28～30年度）

年度	窒素施用量 (kg/10a)		移植日	出穂期	成熟期	タンパク			収量 (kg/10a)	収量比率 (%)
	基肥	穂肥				質含量 (%)	食味値	味度		
H28	3	0		8月6日	9月11日	5.8	89	89	567	87
	3	2	5月23日	8月6日	9月12日	6.0	88	91	599	92
	3	3.5		8月6日	9月12日	6.2	86	89	651	100
H29	3	0		8月4日	9月13日	6.4	87	86	604	95
	3	1.5	5月19日	8月4日	9月13日	6.6	85	89	603	95
	3	3		8月4日	9月13日	6.6	84	83	636	100
H30	3	0		8月1日	9月17日	6.4	85	89	558	92
	3	3	5月18日	8月1日	9月17日	6.6	84	87	605	100
	3	5		8月1日	9月18日	7.0	80	85	655	108

表2 移植時期と食味の関係（平成28～30年度）

年度	移植期	移植日	出穂期	成熟期	出穂～成熟		食味値	味度	整粒率 (%)	未熟粒 (%)	収量 (kg/10a)	収量比率 (%)
					日平均気温 (°C)	食味値						
H28	普通	5月23日	8月6日	9月12日	24.9	89	89	72.8	24.8	567	100	
	晩植	6月2日	8月12日	9月15日	24.5	87	91	77.8	19.3	572	101	
H29	普通	5月19日	8月4日	9月13日	23.9	87	86	72.4	21.4	604	100	
	晩植	5月31日	8月15日	9月28日	21.3	89	90	73.0	19.9	606	100	
H30	普通	5月18日	8月1日	9月17日	24.3	85	89	79.7	18.3	558	100	
	晩植	5月31日	8月10日	9月24日	22.9	87	90	76.9	20.1	574	103	
H30	普通	5月18日	8月5日	9月18日	23.4	89	93	75.8	21.8	578	100	
	晩植	5月28日	8月10日	9月26日	22.2	87	95	79.6	17.6	441	76	

研究所内：基肥：窒素3kg/10a 穂肥：なし 現地（高山市石浦）：基肥：窒素1.8kg/10a 穂肥なし

表3 刈取り時期と食味の関係（平成29～30年度）

年度	刈取り期	刈取り日	タンパク 質含量 (%)	食 味 値	味 度	整 粒 率 (%)	未 熟 粒 率 (%)	胴 割 粒 率 (%)
H29	慣行	9月20日 (黄熟80～90%)	6.3	87	87	74.0	21.4	0.2
	+5日	9月25日	6.3	87	92	75.7	18.9	0.8
	+12日	10月2日	6.4	85	93	73.6	19.1	1.1
H30	慣行	9月19日 (黄熟80～90%)	6.1	87	82	73.5	23.5	0.3
	+6日	9月25日	6.2	85	88	71.8	26.4	0.2
	+13日	10月2日	6.1	87	93	72.7	25.4	0.5

移植日：5月18日 基肥：窒素3kg/10a
出穂期：8月6日（H29）、8月2日（H30） 穂肥：なし

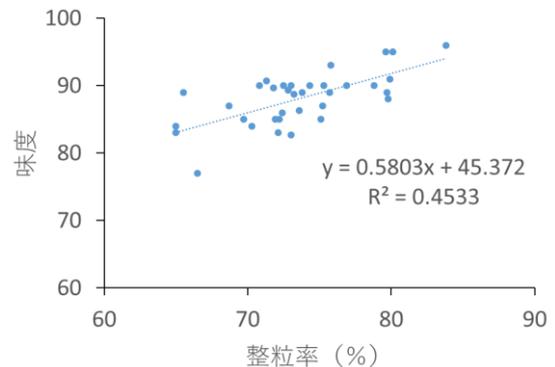


図1 整粒率と味度

研究課題名：国際競争に打ち勝つ飛騨産「コシヒカリ」の良食味米の玄米成分および栽培条件の明確化（平成26～30年度）

研究担当者：可児友哉